

# 琉球大学生の飲酒に関する実態調査

成田 萌果, Moeka Narita

本調査研究は、琉球大学生の酒を飲む動機と飲まない理由からお酒の役割を明らかにすることを目的とし、琉球大学生における飲酒に関する実態調査を習慣飲酒がある人とない人で比較検討したものである。

調査結果から、琉球大学生の回答者は飲み会や友達と過ごすためなどの特定の動機がないとお酒を飲まない傾向にある。学生の飲酒観は社交の手段として多様性を示し、アルコールの役割が単なる娯楽以上に広がっている。

キーワード：飲酒、アルコール離れ、飲酒動機

## はじめに

ニッセイ基礎研究所 2022 年の調査<sup>1</sup>によると、近年、健康志向が高まり、「ソバーキュリアス」と呼ばれる新たな傾向が広がっているという。ソバーキュリアスとは、自分の身体や心の健康を考えて、あえてアルコールを飲まない、飲むとしても少しだけ楽しむライフスタイルのことである。また、若者の間でアルコール離れが顕著になりつつあるという。厚生労働省が実施した「国民健康・栄養調査」<sup>2</sup>から作成したグラフによると、2000 年代から 2010 年代にかけて飲酒習慣のある 20-29 歳の割合は減少傾向にある。

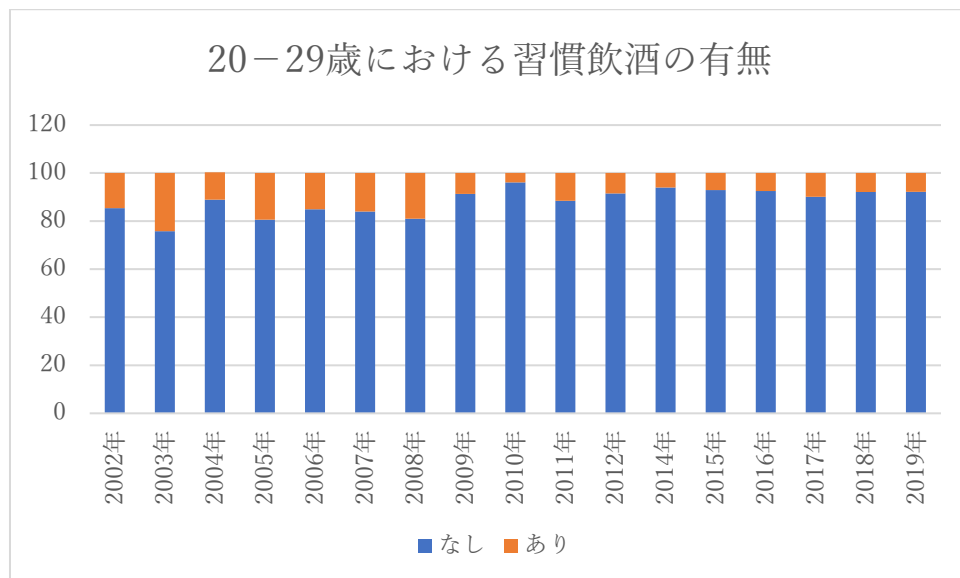


図1 20-29歳における飲酒習慣の有無の推移 (2002~2019年)

私自身が飲み屋で頻繁に言われる言葉に、「20代前半の人がお酒を好んで、毎日お酒を飲むのはめずらしい」というものがある。この言葉から、若者のアルコール離れが身近な状況となりつつ

あることを感じている。かつては若者がお酒を楽しむ光景が一般的だったが、最近ではその風景が変わりつつあり、20代前半の若者が積極的にお酒を摂取することはめずらしいと感じられるようになった。また、酒税は国にとって重要な財源であり、アルコールの販売は飲食店にとっても大きな売り上げとなる。したがって、お酒が売れることは、経済が円滑に回る上で一つの重要な要素と言える。

こうした中、私は「若者のアルコール離れ」という言葉に注目し、特に琉球大学内でこの現象がどれほど広がっているのか、また琉球大学生がお酒に対してどのような意識や考えを抱いているのかを明らかにするために、琉球大学生の飲酒状況についての実態調査を実施することとした。

本論文では、若者のアルコール離れがどの程度進んでいるのか、またその背後にある要因や影響を明らかにすることを目的としている。また、得られた結果が酒業界の将来に対する示唆となり、新たな展開や対策の一助となることを期待している。

## 第1章 調査設計と分析結果

### 1. 調査内容の詳細

本調査は Google フォームを利用したアンケート調査である。対象は 20 才以上の琉球大学生。項目は（1）年齢（2）性別（3）飲酒頻度（4）1日あたりの飲酒量（5）飲酒理由尺度（6）飲酒拒否理由尺度（7）お酒の役割に対する認識。回答方法は（3）で「はい」を答えた人には（5）のみを回答、「いいえ」を答えた人は（5）（6）を回答してもらう。

（3）について、習慣飲酒の定義について、厚生労働省の情報提供サイト e-ヘルスネット<sup>3</sup>に掲載している定義を引用する。「習慣飲酒」とは「週に3日以上、飲酒日1日あたり清酒換算で1合以上飲酒する人」と定義されている。（4）について、1日あたりの飲酒量は厚生労働省の国民健康・栄養調査報告の項目を利用する。（5）飲酒理由尺度と（6）飲酒拒否理由尺度については、桜井(1997)<sup>4</sup>と金地(2007)<sup>5</sup>の飲酒理由尺度と、下記の株式会社ハルメクホールディングスが用いた項目を合わせて調査する。

### 2. 尺度詳細

株式会社ハルメクホールディングスが 2022 年に 50-85 歳の女性 578 名を対象に行った「お酒に関する意識と実態調査」<sup>6</sup>において、お酒を飲む理由に関する回答上位の項目は以下の通りだった。「料理がおいしく感じられるから」「リラックスできるから」「ゆったりした時間を過ごせるから」「リフレッシュ・気分転換できるから」「楽しい気分になれるから」「気持ちが盛り上がるから」「一緒に飲む人とゆっくり話せるから」「一緒に飲む人と打ち解けられるから」「ストレスを解消できるから」。この中で、桜井(1997)の調査には含まれていない「ゆったりした時間を過ごせるから」「リフレッシュ・気分転換できるから」「開放的になれるから」の3項目は、本論文の調査において引用する。なお、シニア世代の項目を取り入れる理由は、異なる世代の意見を取り入れることで飲酒理由の網羅性を上げるためである。また、「気持ちが盛り上がるから」は桜井の「気

分が高まるから」と同義と捉え、集約する。さらに、「一緒に飲む人とゆっくり話せるから」「一緒に飲む人と打ち解けられるから」の2項目は、お酒をコミュニケーションツールとして利用していると考え、これらを「コミュニケーションツールとしてお酒を利用するため（皆と打ち解けるためや人とゆっくり話すためなど）」に統合する。さらに、桜井の「落ち込みやイライラを解消するため」の項目は、この調査の「ストレスを解消できるから」に統合する。

先述した「ニッセイ基礎研究所」の久我は、若い世代のアルコール離れの一因として、リスク回避の志向の高まりと娯楽の多様化を挙げている。景気低迷の中で生まれ育った世代は、経済不安から失敗を恐れる気持ちが強い。また、デジタルネイティブ世代で、大量の情報を集め、より良い選択をしながら成長してきた。このような世代にとって、お酒は効率の悪い娯楽となっていたり、酔うことの楽しさよりも酔って失敗行動をとることのリスクが大きくなっていたりするという。また、お酒にはコミュニケーションとしての機能があるとも指摘している。しかし、SNSの普及により手軽に友達やネット上の人と繋がれるため、わざわざ会ってお酒を飲まなくてもいい環境が若者のアルコール離れの要因になっているという。この視点から、本論文では飲酒拒否理由として、「酔って失敗したくないから（嘔吐、喧嘩など）」「お酒以外のことに時間やお金をかけたい」「コミュニケーションツールとしてのお酒の役割がなくなった」の3項目を加える。

江戸前汽船株式会社 (URL: <https://edomakisen.com/>) が、お酒を飲まないZ世代(22-26歳)の会社員202人に対して実施した「ノンアルZ世代の宴会に対する意識調査<sup>7</sup>」において、お酒を飲まない理由の調査項目は「お酒の味が苦手」「体質的に飲めない」「健康面の懸念」「アルコールの影響を避けたい」「アルコールに対するアレルギー」「家族や友人の影響」「その他」「わからない/答えられない」の8項目である。まず、「お酒の味が苦手」についてはそのまま本論文の調査に採用する。次に、「体質的に飲めない」と「アルコールに対するアレルギー」は類似した理由のため、1つにまとめて「体質に合わない(アレルギー、アルコールに弱いなど)」とする。また、「健康面の懸念」については、細分化して身体面、体調面、外見面、心理面の4つに再設定する。身体面は「身体に悪いから」、体調面は「体調が悪くなるから」、外見面は「体形を気にしているから」、心理面は「ネガティブな気持ちになるから」となる。これら4項目を本論文の調査に追加する。さらに、「アルコールの影響を避けたい」については、性格面の「性格が変わるから(攻撃的になるなど)」と体調面の「二日酔いになりたくないから」、外的影響の「酔っ払いに絡まれたくないから」の3項目を加える。「家族や友人の影響」については、より具体的に「家族や友人がお酒を良く思っていないから」とする。そして、「Q2. あなたは、お酒の席において、不満や悩みを感じた経験がありますか。」という質問に対する回答から得られた情報に基づき、「飲み会などお酒を飲む機会がない」という項目も追加する。

2021年にリカー・イノベーション株式会社が101人の新成人を対象に「新成人のお酒に対するアンケート調査<sup>8</sup>」を実施した。「お酒に対するイメージを教えてください。」という質問に対する回答から、家族など身近な人からの影響が新成人が持つお酒に対するイメージに影響を与えていることがわかった。例えば、「良いイメージ」と回答した人の中には「家族がいつも楽しそうに飲んでいる」といった声があり、一方で「悪いイメージ」と回答した人の中には「身近に酒癖が悪い人がいる」という声が見受けられた。「両親、兄弟など家族にお酒が好きな人はいますか?」という質問では、お酒に「興味がある」と回答した人の方が、「興味ない」「どちらでもない」と回答

した人に比べ、お酒が好きな家族がいる割合が高いことが判明した。この結果から、身近な人の飲酒状況が新成人のお酒に対するイメージに影響を与えている可能性がある。そこで、本論文の調査項目には、「家族が飲むから」「家族が飲まないから」、「友達が飲むから」「友達が飲まないから」、「飲酒に良いイメージがないから」の項目も追加して調査を行う。これにより、身近な人々の飲酒状況やお酒に対して抱くイメージが、お酒への意識や行動にどのような影響を与えるかをより詳細に把握することが期待できる。

2018年にDeNAトラベルは、10-70代の男女1184名を対象に「若者の〇〇離れ」に関する調査<sup>9</sup>を実施した。回答者は、「〇〇離れ」の理由として、「インターネット・スマホの発達(26.4%)」「収入の減少(21.8%)」「時代の変化(17.3%)」「多様な生き方への寛容化(9.6%)」「物欲の低下(9.0%)」「エンタメの多様化(5.7%)」「物価の上昇(2.4%)」「若者の減少(2.15%)」「仕事などで時間がない(1.3%)」「その他(4.3%)」をあげている。若者の「〇〇離れ」が進む理由として、「収入の減少」が最も多く選ばれたことを考慮し、「お金がない」という項目を調査対象に含めることとする。同時に、金銭的な要因だけでなく、時間的な余裕も重要な要素と考えるため、「お酒を飲む時間がない」も調査項目に取り入れることとする。

### 3. 結果と分析

琉球大学所属の学生40人に琉球大学生の飲酒に関する実態調査を行った。性別は男性が16人、女性が24人。年齢は20-29歳が39人、60-69歳が1人。今回の調査は20代の若者を対象にしているため、この60-69歳のデータは外れ値として省き、最終的に男性15名、女性24名、計39名のデータを用いて統計処理を行った。

#### a. 調査結果

結果1：51%の回答者が飲酒日1日あたりの飲酒量は1合未満と回答した。

アンケートに回答した39人の琉球大学生に飲酒日1日あたりの飲酒量を聞いたところ51%が1合未満と回答した。(図2)

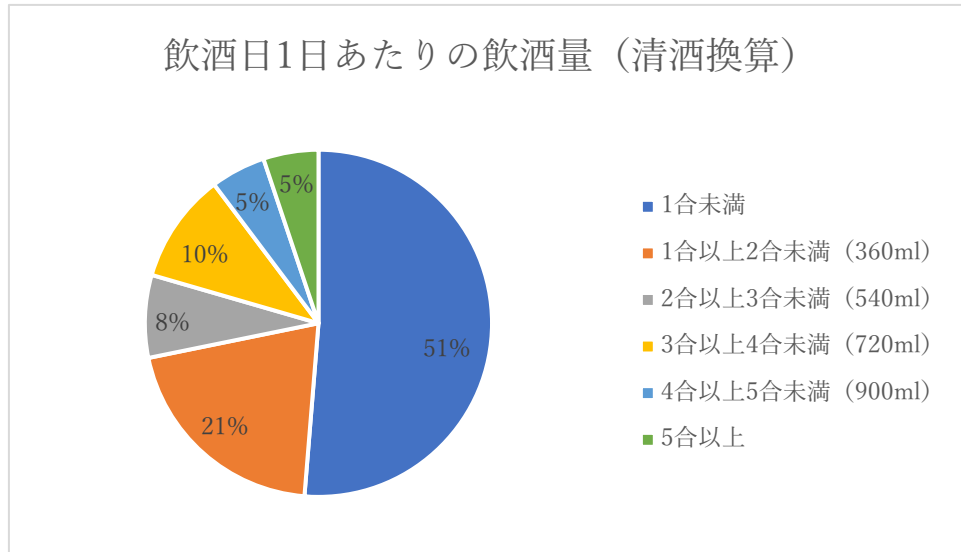


図2 飲酒日1日あたりの飲酒量 (清酒換算)

結果2 : 82%の回答者が習慣飲酒はないと回答した。(図3)

アンケートに回答した39人の琉球大学生に「週に3日以上、清酒換算して1日1合(180ml)以上の飲酒をしていますか。」という内容で習慣飲酒があるかどうか質問をしたところ、82%(32人)の学生が「いいえ」と回答した。以下、週に3日以上、清酒換算して1日1合(180ml)以上の飲酒をしている学生を「習慣飲酒がある」学生とする。

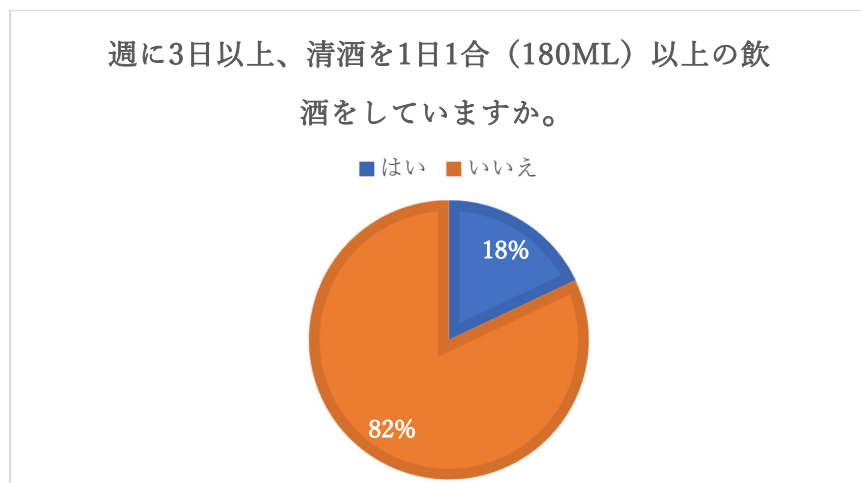


図3 習慣飲酒の有無

結果3 : 84.3%の回答者が「なんとなく飲まない」という理由でお酒を飲まないと回答した。

アンケートに回答した39人の琉球大学生のうち「週に3日以上、清酒換算して1日1合(180ml)以上の飲酒をしていますか。」という問いに「いいえ」と回答した習慣飲酒のない32人に飲酒拒否理由(複数回答)を回答してもらった。その32人のうち84.3%(27人)が「なんとなく飲まな

い」という理由でお酒を飲んでいないということがわかった。続いて多かった尺度は「飲み会などお酒を飲む機会がないから」が 62.5% (20 人)、「お酒以外のことに時間やお金をかけたいから」が 50% (16 人)、「体調が悪くなるのが嫌だから (頭痛、二日酔いなど)」が 46.8% (15 人)、という結果になった。

自由記入欄の飲酒拒否理由には「飲酒を習慣づけたくないから」「飲み会とかはみんなとおしゃべりしながら楽しく飲むからお酒を飲むけど、1 人で飲むメリットはあまり感じないため 1 人では飲まない。」「一度飲みすぎて嘔吐したため禁酒中」「1 人暮らしなのであまり飲む習慣がない(買わないけどあれば飲む)」「お酒の味は嫌いではないが、ジュースや紅茶類のほうが好きだから。」があげられた。

飲酒拒否尺度 20 項目について、因子分析を行った。分類した 7 つの因子は「飲酒イメージ因子」「健康配慮因子」「価値観・好み因子」「飲酒動機不在因子」「家族・体質因子」「人間関係因子」「時間因子」である。データに対してこの 7 つの因子は 76.2% の説明力を持っている。「飲酒イメージ因子」とは、飲酒に対するイメージや飲酒をすることで変化する状態、性格を懸念する心理が飲酒をしない理由になっている尺度である。「飲酒イメージ因子」の尺度は「性格が変わるから」「ネガティブな気持ちになるから」「家族や友達がよく思わないから」「人に迷惑をかけたくないから」「酔って失敗したくないから」の 5 尺度である。「健康配慮因子」とは飲酒をすることで、体調や健康面に悪影響が出ることがマイナスとなり飲酒をしない理由になっている尺度である。「健康配慮因子」の尺度は「身体に悪いから」「飲酒に良いイメージがないから」「体調が悪くなるのが嫌だから」の 3 尺度である。「価値観・好み因子」とは個人の価値観や味覚的、対人的好みで飲酒をしない理由になっている尺度である。「価値観・好み因子」の尺度は「お酒以外のことに時間やお金をかけたいから」「酔っ払いに絡まれたくないから」「コミュニケーションツールとしてのお酒の役割がなくなったから」「味が苦手、おいしくないから」の 4 尺度である。「飲酒動機不在因子」とは飲酒することに具体的な目的がないことが飲酒をしない理由になっている尺度である。「飲酒動機不在因子」の尺度は「なんとなく飲まない」「飲み会などお酒を飲む機会がないから」の 2 項目である。「家族・体質因子」とは家族の影響や体質的にアルコールが合わないことが理由で飲酒をしない尺度である。「家族・体質因子」の尺度は「家族が飲まないから」「体質に合わないから」「お金がないから」の 3 項目である。「人間関係因子」とは第三者の関与が原因で飲酒をしない尺度である。「人間関係因子」の尺度は「友だちが飲まないから」「体形を気にしているから」の 2 項目である。「時間因子」とは時間的な理由で飲酒をしない尺度である。「時間因子」の尺度は「お酒を飲む時間がないから」の 1 項目である。(表 4) 飲酒拒否理由尺度のうち「飲酒動機不在因子」の「なんとなく飲まない」「飲み会などお酒を飲む機会がないから」が上位にランクインしていることから、「飲酒動機不在因子」が飲酒をしない理由に当てはまることがわかった。

表 4 飲酒拒否理由の因子分析結果

飲酒しない理由の因子パターン (回転後の成分行列)							
	成分						
	因子1 飲酒イメージ因子	因子2 健康配慮因子	因子3 価値観・好み因子	因子4 飲酒動機不在因子	因子5 家族・体質因子	因子6 人間関係因子	因子7 時間因子
性格が変わるから	0.929	-0.006	-0.013	-0.189	-0.023	0.082	0.027
ネガティブな気持ちになるから	0.901	0.127	-0.009	-0.230	-0.103	0.100	-0.009
家族や友達がよく思わないから	0.895	-0.015	-0.112	-0.016	0.165	-0.101	-0.056
人に迷惑をかけるたくないから	0.561	0.491	0.209	0.309	-0.202	-0.134	-0.019
酔って失敗したくないから	0.440	0.320	0.241	0.261	-0.413	-0.362	-0.243
身体に悪いから	0.040	0.846	0.023	-0.085	-0.010	0.209	0.225
飲酒にいいイメージがないから	0.117	0.840	0.178	-0.291	0.029	0.102	-0.026
体調が悪くなるのが嫌だから	0.023	0.794	-0.017	0.311	-0.032	-0.058	-0.179
お酒以外のことに時間やお金をかけたいから	0.100	0.086	0.784	0.181	0.127	0.090	0.194
酔っ払いに絡まれたくないから	-0.048	-0.029	0.756	-0.179	0.056	-0.024	0.121
コミュニケーションツールとしてのお酒の役割がなくなったから	-0.047	0.070	0.681	-0.001	-0.159	-0.021	-0.318
味が苦手、おいしくないから	-0.189	0.436	0.506	0.118	0.355	0.051	-0.189
なんとなく飲まない	-0.151	-0.109	-0.019	0.821	0.150	0.123	-0.014
飲み会などお酒を飲む機会がないから	-0.143	0.071	0.013	0.817	-0.127	0.092	0.166
家族が飲まないから	0.018	-0.054	0.345	0.243	0.796	0.154	0.070
体質に合わないから	0.119	0.499	-0.093	-0.156	0.630	-0.206	0.025
お金がないから	0.140	0.248	0.187	0.243	-0.569	0.133	0.488
友達が飲まないから	-0.060	-0.047	0.131	0.074	0.065	0.814	0.029
体形を気にしているから	0.129	0.330	-0.113	0.164	-0.103	0.667	-0.045
お酒を飲む時間がないから	-0.081	-0.035	0.003	0.085	0.014	-0.023	0.910

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 8 回の反復で回転が収束しました。

結果 4：66.6%の回答者が「みんなと集まったときに、楽しく過ごすため」にお酒を飲んでいると回答

アンケートに回答した 39 人の琉球大学生のうち 66.6%（26 人）が「みんなと集まったときに、楽しく過ごすため」という理由でお酒を飲んでいることがわかった。続いて多かった尺度は「友達が飲むから」が 64.1%（25 人）、「飲むことが好き、楽しいから」が 56.4%（22 人）、「楽しい気分になれるから」が 53.8%（21 人）「飲み屋の雰囲気が好きだから」が 53.8%（21 人）であった。

飲酒理由尺度 43 項目について、因子分析を行った。分類した 7 つの因子は「気分高揚因子」「健康促進因子」「手段因子」「社交因子」「興味因子」「習慣化因子」「ペルソナ因子」である。データに対してこの 7 つの因子は 73.0%の説明力を持っている。「気分高揚因子」とは飲酒をすることで、気分が良い方へ変化することが飲酒をする理由になっている尺度である。「気分高揚因子」は「気分が高まるから」「ストレスを解消するため」「リフレッシュ・気分転換をするため」「楽しい気分になれるから」「飲むことが好き、楽しいから」「嫌なことを忘れるため」「大人になった気分になれるから」「好奇心から」「開放的になれるから」「リラックスするから」「ゆったりした時間を過ごせるから」「飲み屋の雰囲気が好きだから」「自分を元気づけるため」「お酒がおいしい、好きだから」の 14 項目である。「健康促進因子」とは薬としてや、体温上昇など酒の効能が飲酒する理由になっている尺度である。「健康促進因子」は「薬として」「体を温めるため」「体調がよくなるから」「性欲が高まるから」「大人のふりをするため」「食欲を増進するため」「飲めないと格好悪から」「飲むのがおしゃれだから」「騒ぎたいから」「勧められるから」の 10 項目である。

「手段尺度」とは飲酒をすることが退屈感を紛らわしたり、楽しみを増す手段になっていたりする因子である。「手段尺度」は「することがないから」「食事中に飲むと、料理がおいしくなるから」「ご褒美として」「寂しさを紛らわすため」「なんとなく飲む」の 5 項目である。「社交因子」とは周囲の人間が飲酒をする理由になっている尺度である。「社交因子」は「友達が飲むから」「みんなと集まったときに、楽しく過ごすため」「付き合いで」「コミュニケーションツールとして」の 4 項目である。「興味因子」とはお酒に対する興味が飲酒をする尺度である。「興味因子」は「新発売のお酒を試すため」「飲んだことないお酒を飲みたいから」「パッケージに惹かれて」「よく眠れるから」の 4 項目である。「習慣化因子」とは行事や習慣が飲酒をする理由になっている尺度である。「習慣化因子」は「行事の習慣として」「家族が飲むから」「祝うため」「お酒を飲む練習として」の 4 項目である。「ペルソナ因子」とは飲酒をすることで性格に変化をもたらすことが飲酒をする理由になっている尺度である。「ペルソナ因子」は「シラフで話せないことを話すため」「性格が社交的、素直になるから」の 2 項目である。

飲酒理由のうち、「社交因子」の「みんなと集まったときに、楽しく過ごすため」「友達が飲むから」が上位にランクインしていることから、「社交因子」が主な飲酒理由ということがわかった。一方、「健康促進因子」は下位にあることから、飲酒理由には当てはまらないことがわかった。



表5 飲酒理由の因子分析結果

	飲酒する理由の因子パターン (回転後の成分行列)						
	因子1 気分高揚因子	因子2 健康促進因子	因子3 手段因子	因子4 社交因子	因子5 興味因子	因子6 習慣化因子	因子7 ペルソナ因子
気分が高まるから	0.831	-0.035	0.096	0.166	-0.045	0.004	0.274
ストレスを解消するため	0.820	0.123	-0.105	0.087	0.026	0.039	-0.049
リフレッシュ・気分転換をするため	0.800	0.105	0.249	-0.010	0.237	-0.001	0.063
楽しい気分になれるから	0.783	-0.079	0.081	0.242	-0.195	0.024	0.197
飲むことが好き、楽しいから	0.678	-0.237	0.219	-0.239	-0.102	0.198	0.027
嫌なことを忘れるため	0.633	0.107	0.030	-0.084	0.048	0.143	0.196
大人になった気分になれるから	0.629	0.511	0.230	0.015	-0.027	0.084	-0.296
好奇心から	0.618	0.330	0.101	0.131	-0.092	0.147	0.000
開放的になれるから	0.601	0.166	-0.219	0.175	-0.014	0.346	0.413
リラックスするから	0.599	0.168	0.434	-0.092	0.355	0.057	0.362
ゆったりした時間を過ごせるから	0.582	0.116	0.470	0.027	0.305	-0.024	0.281
飲み屋の雰囲気が好きだから	0.555	-0.197	0.299	0.152	0.179	0.109	0.049
自分を元気づけるため	0.540	0.165	0.046	0.061	0.007	0.529	0.350
お酒がおいしい、好きだから	0.492	-0.108	0.320	-0.446	0.269	0.237	-0.072
薬として	-0.157	0.902	0.111	-0.115	-0.076	0.056	0.106
体を温めるため	0.016	0.863	-0.042	-0.226	0.059	0.147	0.164
体調がよくなる	0.014	0.835	0.010	-0.136	0.027	0.138	0.294
性欲が高まるから	0.172	0.829	-0.054	0.017	0.042	0.152	0.306
大人のふりをするため	0.077	0.821	0.027	0.185	-0.045	0.271	-0.035
食欲を増進するため	-0.032	0.797	0.251	0.150	0.029	-0.086	0.132
飲めないと格好悪いから	0.125	0.721	0.014	0.262	-0.092	-0.152	-0.348
飲むのがおしゃれだから	0.517	0.680	-0.041	0.162	0.180	0.009	-0.113
騒ぎたいから	0.332	0.546	0.235	0.220	0.230	0.053	0.506
勧められるから	-0.165	0.430	0.374	0.400	0.008	0.405	-0.075
することがないから	0.148	0.229	0.837	0.020	0.166	0.116	-0.104
食事中に飲むと、料理がおいしくなるから	0.065	-0.092	0.775	-0.182	0.080	0.003	0.172
ご褒美として	0.424	0.015	0.611	-0.127	0.098	0.449	0.206
寂しさを紛らすため	0.273	0.462	0.489	-0.272	0.015	-0.075	0.029
なんとなく飲む	0.312	0.148	0.482	0.062	0.217	0.385	-0.273
友達が飲むから	0.197	-0.054	-0.096	0.813	0.106	0.232	-0.019
みんなと集まったときに、楽しく過ごすため	0.345	-0.025	-0.149	0.796	-0.119	0.012	0.183
付き合いで	-0.248	0.137	0.023	0.661	0.258	0.108	-0.038
コミュニケーションツールとして	0.400	0.048	-0.031	0.614	0.048	0.082	0.386
新発売のお酒を試すため	-0.057	0.005	0.129	0.192	0.839	0.136	0.096
飲んだことないお酒を飲みたいから	0.394	-0.035	0.274	-0.104	0.761	0.002	-0.091
パッケージに惹かれて	-0.063	-0.144	0.081	0.189	0.736	0.129	-0.009
よく眠れるから	-0.018	0.268	-0.007	-0.167	0.702	0.180	0.184
行事の慣習として	0.245	0.017	0.020	0.078	0.204	0.804	0.113
家族が飲むから	0.000	0.311	0.381	0.193	0.112	0.601	0.015
祝うため	0.346	0.061	0.233	0.094	0.363	0.531	0.296
お酒を飲む練習として	0.039	0.443	-0.062	0.196	0.178	0.504	-0.132
シラフで話せないことを話すため	0.204	0.192	0.187	0.169	0.057	0.036	0.731
性格が社会的、素直になるから	0.473	0.269	-0.096	0.011	0.125	0.143	0.713

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 9 回の反復で回転が収束しました。

先行研究を通してアルコールには飲み物という役割以外に、コミュニケーションツールと娯楽という役割もあることがわかった。琉球大学生がお酒をどう捉えているかについても調査した。

（図 6）

自由記入欄には「仲のいい友達や久々に会う人、初めて会う人など色々な人と関わりを持つ場」「自分の写し鏡」という意見があった。

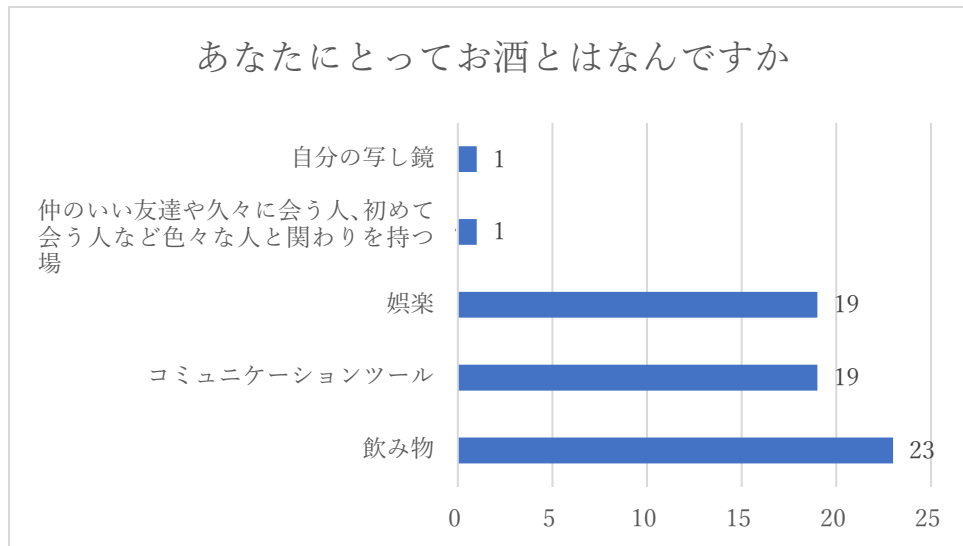


図 6 お酒の役割についての意識調査結果

#### b. 習慣飲酒別での比較

飲酒尺度を習慣飲酒がある学生とない学生で比較をする。この比較には t 検定を利用して、飲酒するさまざまな理由の回答の平均に差があるかどうかを検証した。設問に対し、「あてはまる」と回答したものを 1、「当てはまらない」と回答をしたものを 5 としたため、平均が低い方が該当する学生が多いという結果になる。飲酒尺度のうち、「食事中に飲むと、料理がおいしくなるから」「飲むことが好き、楽しいから」「することがないから」「ごほうびとして」が統計的に有意差がとれ、習慣飲酒のないグループの回答平均が飲酒習慣があるグループよりも高かった。すなわち、習慣飲酒がないグループはあるグループよりも上記 4 項目について「当てはまらない」という結果を示した。

表7 t検定の有意項目の結果

		F 値	有意確率	有意確率	平均値の差
				片側 p 値	
食事中に飲むと、料理がおいしくなるから	等分散を仮定する	2.582	0.117	0.002	-1.835
	等分散を仮定しない			0.018	-1.835
飲むことが好き、楽しいから	等分散を仮定する	3.140	0.085	0.045	-1.223
	等分散を仮定しない			0.043	-1.223
することがないから	等分散を仮定する	30.774	0.000	0.000	-1.688
	等分散を仮定しない			0.034	-1.688
ご褒美として	等分散を仮定する	2.139	0.152	0.019	-1.379
	等分散を仮定しない			0.054	-1.379

## 第2章 考察とまとめ

調査の結果より、飲酒しない理由は「なんとなく飲まない」「飲み会などお酒を飲む機会がないから」というような「飲酒動機不在因子」が高い傾向にあった。飲酒する理由は「みんなと集まったときに、楽しく過ごすため」「友達が飲むから」というような「社交因子」が高い傾向にあった。習慣飲酒の有無で比較すると、習慣飲酒がある回答者は「食事中に飲むと、料理がおいしくなるから」「することがないから」「ごほうびとして」というような「手段因子」が習慣飲酒のない回答者よりも高い傾向にあった。

以上の結果から、調査対象とした琉球大学生は飲酒に関する特定の動機がない場合は、自然とお酒を飲まず、誰かと過ごすときなどはコミュニケーションの手段の一つとして、飲酒をしていると考えられる。また、習慣飲酒者は飲むことを何かしらの目的や楽しみとして日常生活に積極的に取り入れていると考えられる。

以上のことより、今回の調査対象となった琉球大学生は、お酒を誰かと一緒に過ごすためのコミュニケーション手段という道具として捉えているのではないだろうか。飲酒がコミュニケーションの手段として機能していることが明らかになったため、今後は社会的な場面での飲酒が人間

関係やコミュニケーションに与える影響を調査することで、人間関係の形成と維持にお酒がどれほど寄与しているかを追求できるだろう。

---

<sup>1</sup> ニッセイ基礎研究所、『さらに進行するアルコール離れ 若者で増える、あえて飲まない「ソバーキュリアス』(2022) <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=73047?site=nli> (2024, 01, 18 閲覧)。

<sup>2</sup> 厚生労働省、「平成 14 年国民栄養調査」。<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/12/h1224-4e.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 15 年国民健康・栄養調査報告」 p. 194。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa2-01/index.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 16 年国民健康・栄養調査報告」 p. 197。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa06/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 17 年国民健康・栄養調査報告」 p. 241。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa07/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 18 年国民健康・栄養調査報告」 p. 256。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa08/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 19 年国民健康・栄養調査報告」 p. 267。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa09/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 20 年国民健康・栄養調査報告」 p. 290。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa20-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 21 年国民健康・栄養調査報告」 p. 164。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa21-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省「平成 22 年国民健康・栄養調査報告」 p. 154。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa22-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 23 年国民健康・栄養調査報告」 p. 179。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa23-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 24 年国民健康・栄養調査報告」 p. 151。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa24-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 26 年国民健康・栄養調査報告」 p. 174。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa26-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 27 年国民健康・栄養調査報告」 p. 231。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa27-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 28 年国民健康・栄養調査報告」 p. 151。 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa28-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 29 年国民健康・栄養調査報告」 p. 179。 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryouchosa29-houkoku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryouchosa29-houkoku.html) (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 30 年国民健康・栄養調査報告」 p. 182。 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryouchosa30-houkoku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryouchosa30-houkoku_00001.html) (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「令和元年国民健康・栄養調査報告」 p. 209。 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryouchosa01-houkoku\\_00002.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryouchosa01-houkoku_00002.html) (2024, 01, 18 閲覧)。

<sup>3</sup> 厚生労働省、「習慣飲酒」 <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/alcohol/ya-015.html#:~:text=%E7%BF%92%E6%85%A3%E9%A3%B2%E9%85%92%E7%BC%88%E3%81%97%E3%82%85%E3%81%86%E3%81%8B%E3%82%93%E3%81%84%E3%82%93%E3%81%97%E3%82%85%E7%BC%89&text=%E9%80%B1%E3%81%AB3%E6%97%A5%E4%BB%A5%E4%B8%8A,%E8%A6%8B%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%9B%E3%82%93%E3%80%82> (2024, 01, 18 閲覧)。

<sup>4</sup> 桜井 茂男 (1997)、「飲酒理由、飲酒効果と飲酒関連行動、アルコール依存傾向との関係」、筑波大学心理学研究、19、p. 119。

<sup>5</sup> 金地 美知彦 (2007)、「飲酒を規定する心理的要因の検討—飲酒効果の期待、飲酒に対する態度と主観的規範—」、八戸大学紀要、第 34 号、p. 168。

<sup>6</sup> 株式会社ハルメクホールディングス、「お酒に関する意識と実態調査」(2022)。<https://www.halmek->

[holdings.co.jp/news/press/2022/t2o1xdr6p9b/](https://holdings.co.jp/news/press/2022/t2o1xdr6p9b/) (2024, 01, 18 閲覧)。

<sup>7</sup> 江戸前汽船 株式会社、「ノンアルZ世代の宴会に対する意識調査」、PR TIMES。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000082.000096384.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

<sup>8</sup> リカー・イノベーション株式会社 (2021)、「新成人 100 名に聞いた『お酒のイメージ』約 90%が『お酒に興味がある』と回答」、PR TIMES。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000220.000006894.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

<sup>9</sup> DeNA トラベル (2018)、「若者の〇〇離れランキング、1位は「車」——時代の変化、解決する必要はない」、レスポンス。<https://response.jp/article/2018/02/24/306471.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

## 参考文献

江戸前汽船株式会社、「ノンアルZ世代の宴会に対する意識調査」、PR TIMES。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000082.000096384.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

金地 美知彦 (2007)、「飲酒を規定する心理学的要因の検討—飲酒効果の期待、飲酒に対する態度と主観的規範—」、八戸大学紀要、第 34 号, p. 168。

株式会社ハルメクホールディングス、「お酒に関する意識と実態調査」(2022)。<https://www.halmek-holdings.co.jp/news/press/2022/t2o1xdr6p9b/> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「習慣飲酒」<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/alcohol/ya-015.html#:~:text=%E7%BF%92%E6%85%A3%E9%A3%B2%E9%85%92%EF%BC%88%E3%81%97%E3%82%85%E3%81%86%E3%81%8B%E3%82%93%E3%81%84%E3%82%93%E3%81%97%E3%82%85%EF%BC%89&text=%E9%80%B1%E3%81%AB3%E6%97%A5%E4%BB%A5%E4%B8%8A,%E8%A6%8B%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%9B%E3%82%93%E3%80%82> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 14 年国民栄養調査」<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/12/h1224-4e.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 15 年国民健康・栄養調査報告」 p. 194。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa2-01/index.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 16 年国民健康・栄養調査報告」 p. 197。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou06/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 17 年国民健康・栄養調査報告」 p. 241。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou07/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 18 年国民健康・栄養調査報告」 p. 256。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou08/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 19 年国民健康・栄養調査報告」 p. 267。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou09/01.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 20 年国民健康・栄養調査報告」 p. 290。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h20-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 21 年国民健康・栄養調査報告」 p. 164。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h21-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 22 年国民健康・栄養調査報告」 p. 154。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h22-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 23 年国民健康・栄養調査報告」 p. 179。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h23-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 24 年国民健康・栄養調査報告」 p. 151。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h24-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 26 年国民健康・栄養調査報告」 p. 174。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h26-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 27 年国民健康・栄養調査報告」 p. 231。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h27-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 28 年国民健康・栄養調査報告」 p. 151。<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou/h28-houkoku.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 29 年国民健康・栄養調査報告」 p. 179。[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/kenkou/eiyou/h29-houkoku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/eiyou/h29-houkoku.html) (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「平成 30 年国民健康・栄養調査報告」 p. 182。[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/kenkou/eiyou/h30-houkoku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/eiyou/h30-houkoku_00001.html) (2024, 01, 18 閲覧)。

厚生労働省、「令和元年国民健康・栄養調査報告」 p. 209。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/eiyuu/r1-houkoku\\_00002.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/r1-houkoku_00002.html)

(2024, 01, 18 閲覧)。

桜井 茂男 (1997)、「飲酒理由、飲酒効果と飲酒関連行動、アルコール依存傾向との関係」、筑波大学心理学研究、19、p. 119。

ニッセイ基礎研究所、『さらに進行するアルコール離れ 若者で増える、あえて飲まない「ソバーキュリアス」』

(2022) <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=73047?site=nli> (2024, 01, 18 閲覧)。

リカー・イノベーション株式会社 (2021)、「新成人 100 名に聞いた『お酒のイメージ』約 90%が『お酒に興味がある』と回答」、PR TIMES。 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000220.000006894.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

DeNA トラベル (2018)、「若者の〇〇離れランキング、1 位は「車」——時代の変化、解決する必要はない」、レスポンス。 <https://response.jp/article/2018/02/24/306471.html> (2024, 01, 18 閲覧)。

## 付録

### (1) 年齢

1. 20-29 歳
2. 30-39 歳
3. 40-49 歳
4. 50-59 歳
5. 60-69 歳
7. 70 歳以上

### (2) 性別

1. 男性
2. 女性
3. 答えたくない

### (3) 週に 3 日以上、清酒換算して 1 日 1 合 (180ml) 以上の飲酒をしていますか。

清酒 1 合 (アルコール度数 15 度、180ml) 次の量にほぼ相当します。ビール中瓶 1 本 (同 5 度・500ml), 焼酎 0.6 合 (同 25 度・約 110ml), ワイン 1 / 4 本 (同 14 度・約 180ml), ウイスキーダブル 1 杯 (同 43 度・60ml), 缶チューハイ 1.5 缶 (同 5 度・約 520ml)。

1. はい
2. いいえ

### (4) 飲酒日 1 日あたりの飲酒量を教えてください。清酒換算し、あてはまる数字を選んで下さい。

清酒 1 合 (アルコール度数 15 度、180ml) 次の量にほぼ相当します。ビール中瓶 1 本 (同 5 度・500ml), 焼酎 0.6 合 (同 25 度・約 110ml), ワイン 1 / 4 本 (同 14 度・約 180ml), ウイスキーダブル 1 杯 (同 43 度・60ml), 缶チューハイ 1.5 缶 (同 5 度・約 520ml)。

1. 1 合未満
2. 1 合以上 2 合未満 (360ml)
3. 2 合以上 3 合未満 (540ml)

- 4. 3合以上 4合未満 (720ml)
- 5. 4合以上 5合未満 (900ml)
- 6. 5合以上

(5) 飲酒する理由はなんですか。あてはまる数字を選んでください。4「あてはまる」、3「ややあてはまる」、2「ややあてはまらない」、1「あてはまらない」

- 1. ストレスを解消するため
- 2. 嫌なことを忘れるため
- 3. 食事中に飲むと、料理がおいしくなるから
- 4. 新発売のお酒を試すため
- 5. パッケージに惹かれて
- 6. 飲んだことないお酒を飲みたいから
- 7. 飲み屋の雰囲気が好きだから
- 8. お酒がおいしい、好きだから
- 9. 飲むことが好き、楽しいから
- 10. 大人になった気分になれるから
- 11. 好奇心から
- 12. 飲めないと格好悪いから
- 13. お酒を飲む練習として
- 14. 飲むのがおしゃれだから
- 15. 大人のふりをするため
- 16. リフレッシュ・気分転換をするため
- 17. 気分が高まるから
- 18. リラックスするから
- 19. 性格が変わるから (社会的になる、素直になる)
- 20. 開放的になれるから
- 21. 楽しい気分になれるから
- 22. 家族が飲むから
- 23. 友達が飲むから
- 24. 付き合いで
- 25. 勧められるから
- 26. コミュニケーションツールとしてお酒を利用するため (皆と打ち解けるため、人とゆっくり話すためなど)
- 27. みんなと集まったときに、楽しく過ごすため
- 28. 体調がよくなるから
- 29. 薬として
- 30. 体を温めるため
- 31. よく眠れるから
- 32. なんとなく飲む

33. することがないから
34. 寂しさを紛らわすため
35. ゆったりした時間を過ごせるから
36. 騒ぎたいから
37. シラフで話せないことを話すため
38. ご褒美として
39. 性欲が高まるから
40. 自分を元気づけるため
41. 祝うため
42. 行事の慣習として
43. 食欲を増進するため
44. その他（自由記入欄）

（6）お酒を飲まない理由はなんですか。あてはまる数字を選んでください。

- 4 「あてはまる」、3 「ややあてはまる」、2 「ややあてはまらない」、1 「あてはまらない」
1. 性格が変わるから（攻撃的になるなど）
2. ネガティブな気持ちになるから
3. 家族が飲まないから
4. 友だちが飲まないから
5. 家族、友達が飲酒を良く思っていないから
6. 飲酒に良いイメージがないから
7. 体調が悪くなるから（頭痛、二日酔いなど）
8. 体形を気にしているから
9. 身体に悪いから
10. 人に迷惑をかけたくないから
11. なんとなく飲まない
12. お金がないから
13. 酔って失敗したくないから（人前での嘔吐、喧嘩など）
14. 体質に合わないから（アレルギー、アルコールに弱いなど）
15. お酒以外のことに時間やお金をかけたいから
16. 味が苦手、おいしくないから
17. コミュニケーションツールとしてのお酒の役割がなくなったから（皆と打ち解けるため、人とゆっくり話すためなど）
18. 飲み会などお酒を飲む機会がないから
19. 酔っ払いに絡まれたくない
20. お酒を飲む時間がないから
21. その他（自由記入欄）



(7) お酒の役割について教えてください。

1. 飲み物
2. コミュニケーションツール
3. 娯楽
4. その他 (自由記入欄)